

令和元年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究
運動器慢性痛に対するチームアプローチと就労支援のシステム構築を目指して

研究分担者 西田 圭一郎 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科整形外科 准教授

研究要旨

慢性痛患者において就労できないことは社会においても損失につながり、一方で就労を支援することにより、患者において目的が達成し痛み診療においてもよい循環が回る場合がある。そこで、我々が以前から取り組んでいる運動器慢性痛に対するチームアプローチ「痛みリエゾン外来」に受診中で、休職中・退職中の患者に対し就労支援システムを使用し現状について検討した。

A. 研究目的

岡山大学病院では、難治性慢性痛患者に対して 2012 年より多職種が集まり運動療法を中心とした集学的なアプローチを外来で行っている。治療におけるゴールは各患者で異なる中で、特に社会生活を送る上で問題となるのは就労である。そこで、当院では、もともと総合患者支援センターで癌や糖尿病で長期療養が必要な患者に対して行っていた就労支援システムを、慢性痛患者にも拡大し効果を検討しているのを報告する。

B. 研究方法

2018 年 1 月以降痛みリエゾン外来を受診した休職中・退職中の症例 17 例（性別：男性 3 例、女性 14 例）、年齢 43.4 歳（26～62 歳）に対して集学的アプローチを行いながら就労支援を試みた。

（倫理面への配慮）

この研究は倫理委員会の追加申請中である。

C. 研究結果

現在、17 例中 12 例（71%）が復職中で、3 例

（17%）が就労支援中、1 例（6%）がボランティア活動、1 例（6%）出産育児中である。NRS,PCS,PDAS,HADS の抑うつが就労前後で有意に改善している。

D. 考察

慢性痛の社会的な影響として勤労できないための経済的損失として年間当たり 3720 億円と算出されている。慢性痛のゴールは生活であり、その一つの目的として就労は社会参加への一歩でもあり重要である。就労を支援することで、目的が達成し痛み治療が良い方向に向かうケースもある。当院で行っている総合患者支援センター介入による就労支援システムにより、慢性痛患者が社会へ戻りやすくなるシステムとなるものと考えられる。

E. 結論

就労を支援することで生活の中に目的が達成し慢性痛治療が良い方向に向かう可能性が示唆された。

F. 健康危険情報

G . 研究発表

1. 論文発表

1. Tetsunaga T, Fujiwara K, Endo H, Tetsunaga T, Miyake T, Yamada K, Sanki T, Ozaki T. Changes in acetabular component alignment due to screw fixation in patients with hip dysplasia. *Hip Int.* 2019 Sep;29(5):535-542.
2. Tetsunaga T, Endo H, Tetsunaga T, Yamada K, Furumatsu T, Ozaki T. Avulsion fracture of the ischial tuberosity treated with the suture bridge technique: a case report. *BMC Musculoskelet Disord.* 2019 Jan 5;20(1):9.
3. Tsuji H, Tetsunaga T, Tetsunaga T, Nishida K, Misawa H, Ozaki T. The factors driving self-efficacy in intractable chronic pain patients: a retrospective study. *J Orthop Surg Res* 14:473, 2019.
4. 鉄永 倫子. 【患者さんが笑顔で過ごせるために あなたが解決!痛みとしびれ みんなの対応法を一挙公開!】治療後も痛みが残存するときのケア 治療後の痛みの慢性化防止. *整形外科看護* 24 巻 8 号 809, 2019.
5. 鉄永 倫子. 【患者さんが笑顔で過ごせるために あなたが解決!痛みとしびれ みんなの対応法を一挙公開!】治療後も痛みが残存するときのケア 心理面へのアプローチ. *整形外科看護* 24 巻 8 号 807-808, 2019.
6. 鉄永 倫子. 【患者さんが笑顔で過ごせるために あなたが解決!痛みとしびれ みんなの対応法を一挙公開!】治療後も痛みが残存するときのケア 共感・傾聴の姿勢と心構え. *整形外科看護* 24 巻 8 号 806, 2019.
7. 鉄永 倫子. 【患者さんが笑顔で過ごせるために あなたが解決!痛みとしびれ みんなの対応法を一挙公開!】治療後も痛みが残存するときのケア 不安への対応. *整形外科看護* 24 巻 8 号 804-805, 2019.
8. 鉄永 倫子. 【患者さんが笑顔で過ごせるために あなたが解決!痛みとしびれ みんなの対応法を一挙公開!】治療後も痛みが残存するときのケア 治療後も痛みが残存? *整形外科看護* 24 巻 8 号 802-803, 2019.
9. 鉄永 倫子, 鉄永 智紀. 整形外科を牽引する女性医師たち-男女共同参画 脊椎外科医から医療安全へ そして未来へ. *臨床整形外科* 54 巻 5 号 473-475, 2019. DOI: 10.11477/mf.1408201360
10. 鉄永 倫子, 鉄永 智紀, 尾崎 敏文. 【"ナゾ"の痛み診療ストラテジー OPQRST で読み解く】診断と治療のストラテジー 「頭の先から足の先まで」痛みの case file 腰も足も痛いんです! *総合診療* 29 巻 4 号 450-454, 2019. DOI : 10.11477/mf.1429202013
11. 鉄永 倫子, 神崎 浩孝, 鉄永 智紀. 【長引く痛みに向き合う】《それぞれの痛みにどうつきあうか》*リウマチの痛み. Modern Physician*39 巻 3 号 293-295, 2019.
12. Horita M, Nishida K, Hashizume K, Sugimoto Y, Nasu Y, Nakahara R, Harada R, Ozaki T. Prevalence of and Risk Factors for the Progression of Upper Cervical Lesions in Patients with Rheumatoid Arthritis. *Acta Med Okayama* 73:235-240, 2019.
13. Horita M, Nishida K, Hasei J, Furumatsu T, Sakurai M, Onodera Y, Fukuda K, Salter DM, Ozaki T. Involvement of ADAM12 in Chondrocyte Differentiation by Regulation of TGF-beta1-Induced IGF-1 and RUNX-2 Expressions. *Calcif Tissue Int* 105:97-106,

- 2019.
14. Kaneko Y, Kawahito Y, Kojima M, Nakayama T, Hirata S, Kishimoto M, Endo H, Seto Y, Ito H, **Nishida K**, Matsushita I, Kojima T, Kamatani N, Tsutani K, Igarashi A, Hasegawa M, Miyasaka N, Yamanaka H. Efficacy and safety of tacrolimus in patients with rheumatoid arthritis - A systematic review and meta-analysis. *Mod Rheumatol* 30:1-9, 2020.
 15. Takahara Y, **Nishida K**, Nakashima H, Ochi N, Uchida Y, Kato H, Itani S, Nakamura M, Iwasaki Y, Tsujimura Y. Two Cases of High Tibial Osteotomy in Patients with Rheumatoid Arthritis Treated with Biologic Disease-modifying Anti-rheumatic Drugs. *Acta Med Okayama* 73:537-542, 2019.
 16. Ohtsuki T, Shinaoka A, Kumagishi-Shinaoka K, Asano K, Hatipoglu OF, Inagaki J, Takahashi K, Oohashi T, **Nishida K**, Naruse K, Hirohata S. Mechanical strain attenuates cytokine-induced ADAMTS9 expression via transient receptor potential vanilloid type 1. *Exp Cell Res* 383:111556, 2019.
 17. Ito H, Tsuji S, Nakayama M, Mochida Y, **Nishida K**, Ishikawa H, Kojima T, Matsumoto T, Kubota A, Mochizuki T, Sakuraba K, Matsushita I, Nakajima A, Hara R, Haraguchi A, Matsubara T, Kanbe K, Nakagawa N, Hamaguchi M, Momohara S, Consortium J. Does Abatacept Increase Postoperative Adverse Events in Rheumatoid Arthritis Compared with Conventional Synthetic Disease-modifying Drugs? *J Rheumatol*, 2019.
- (金剛セミナー) 2019. 9. 21, 神戸市, 2019.
2. **鉄永 倫子**, **鉄永 智紀**, **西田 圭一郎**, 神崎 浩孝, 松崎 孝, 井上 真一郎, 太田 晴之, 大倉 和代, 尾崎 敏文. 岡山大学病院における運動器慢性痛患者に対する復職支援の取り組み. 第92回日本整形外科学会学術総会、平成31年5月9~12日、横浜市
 3. **鉄永 倫子**. 運動器慢性痛を診る ~身体と心をサポート~. 第92回日本整形外科学会学術総会、平成31年5月9~12日、横浜市
 4. **鉄永 倫子**, **西田 圭一郎**, **鉄永 智紀**, 井上 真一郎, 太田 晴之, 大倉 和代, 宮本和子, 尾崎 敏文. 慢性腰痛に対する集学的アプローチ. 第41回日本疼痛学会、平成31年7月12~13日、名古屋市
 5. 大橋 俊孝, 加来田 博貴, 大野 充昭, **西田 圭一郎**. シンポジウム 14. 変形性関節症: from bench to bedside. 第92回日本整形外科学会学術総会、横浜、2019.5.10.
 6. **Tetsunaga T**, Tetsunaga T, **Nishida K**, Ozaki T. Evaluation of the personality in patients with intractable chronic pain before and after treatment in pain liaison outpatient clinic. 2019 AAOS Annual Meeting, Las Vegas, Mar/12-16/2019
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H .知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

2. 学会発表

1. **西田 圭一郎**. 高齢者慢性疼痛の特徴とトータルマネジメント. 第133回 中部整形外科災害外科学会, ランチョンセミナー

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

研究協力者

鉄永倫子 岡山大学病院整形外科 助教